MCP × GA4 スタートガイド 完全版

別冊
Google公式MCPサーバー
セットアップ完全手順書

鍵ファイル不要の安全な認証で、広告費・ファネル・リアルタイム分析まで

8
セットアップ
ステップ
(Windows・Mac対応)

17
公式版つまずき
ポイント診断

10
分析に使える
ツール

v1.3(2026年11月更新)

本別冊は「MCP×GA4 スタートガイド 完全版」の追加モジュールです(無償アップデート)

© HAPPY ANALYTICS ／ ga4.guide

はじめに

この別冊の位置づけ

2026年7月、Googleが**公式のGA4 MCPサーバー(`analytics-mcp`)**を公開しました。本ガイドのモジュール1で解説しているサードパーティ製サーバーとは別に、Google自身が開発・配布する選択肢が加わったことになります。

本別冊は、この公式サーバーをClaude Desktopに接続する完全手順です。**モジュール1(サードパーティ版)の手順は引き続き有効です。**どちらか一方を選べば分析は始められます。まだ環境を作っていない方は、第1章の「選び方」から読み、自分に合う方の手順に進んでください。すでにサードパーティ版で運用中の方は、乗り換える必要は必ずしもありません——公式版ならではの利点(第1章)に魅力を感じたときが、切り替えのタイミングです。

> **2026年11月:公式サーバーが正式版(v1.0)になりました**
> 2026年11月3日、公式サーバーはバージョン1.0となり、「実験的(Experimental)」の段階を終えました。本別冊v1.3は、11月6日公開の最新版(v1.1.0)で内容を確かめています。**セットアップの手順は変わっていません。**すでに公式版が動いている方は、設定を変えずにそのまま使えます。新しく使えるようになったツールと、新しく加わった「書き込み」機能の扱いは、第1章の後半にまとめました。

> **本別冊の読み方**
> 公式版のセットアップはコマンド操作が中心のため、本別冊はコマンドを1つずつ枠内に示す形式で構成しています。**すべてコピー&ペーストで実行できます。**入力するコマンドと画面に表示される内容を区別して記載しているので、枠の左上のラベルにご注意ください。

第1章 公式版とサードパーティ版 — 違いと選び方

まず、2つのサーバーの違いを正確に把握しましょう。どちらが「上位」というものではなく、向き不向きがあります。

項目	サードパーティ版(モジュール1)	Google公式版(本別冊)
提供元	個人開発者(npm配布)	**Google公式(PyPI配布)**
実行環境	**Node.js(npx)— 手軽**	Python + pipx + gcloud
認証方式	サービスアカウント鍵を設定ファイルに記載	**ADC(自分のGoogleアカウントでログイン・鍵の直書き不要)**
使用API	Data APIのみ	Admin API + Data API(両方の有効化が必要)
ファネル/リアルタイム	非対応	**対応**
広告費・ROAS/注釈/キーイベント	非対応	**対応(読み取り)**
プロパティの指定	設定ファイルでID指定(1つに固定)	**一覧から自動取得(複数プロパティ横断可)**
アクセス範囲の制御	**権限を付与したプロパティのみ(絞り込み可)**	ログインしたアカウントが見える全プロパティ
提供状況	安定運用中	**正式版(2026年11月にv1.0)**

どちらを選ぶか(判断基準)

- **公式版が向いている方:** 鍵ファイルの管理に不安がある/ファネル・リアルタイム・広告費(ROAS)の分析も使いたい/複数プロパティを横断して扱いたい/業務で長く使う前提
- **サードパーティ版が向いている方:** とにかく最短・最小の準備で始めたい(Python・gcloud不要)/AIに見せるプロパティを厳密に1つへ絞りたい/会社PCでソフトの追加インストールが難しい

> **公式版の注意:アクセス範囲**
> 公式版はログインしたGoogleアカウントが閲覧できる**すべてのプロパティ**にアクセスできます。クライアントのプロパティ権限を多数持っている方は、AIとの対話で意図しないプロパティを参照しないよう、分析時にプロパティを明示する運用を徹底してください(絞り込みが必要な場合の対処はFAQ Q4へ)。

公式版で使えるツール(v1.1.0時点)

AIは、質問に合わせて次のツールを自分で選んで使います。ツール名を覚える必要はありません。「何ができるのか」の目安としてご覧ください。

ツール名	できること
`get_account_summaries`	アクセスできるアカウントとプロパティの一覧
`get_property_details`	プロパティの詳細(タイムゾーン・通貨など)
`list_key_events`	キーイベント(旧コンバージョン)の一覧 **新**
`get_custom_dimensions_and_metrics`	カスタムディメンション・カスタム指標の一覧
`list_property_annotations`	GA4に付けた注釈(メモ)の一覧 **新**
`list_google_ads_links`	リンクしているGoogle広告アカウント **新**
`run_report`	通常のレポート(期間・ディメンション・指標を指定)
`run_funnel_report`	ファネルレポート
`run_conversions_report`	広告費・コンバージョン・ROAS・アトリビューション **新**
`run_realtime_report`	リアルタイムレポート

「新」は、v1.2(2026年8月)の別冊以降に使えるようになったツールです。表に出てこない場合は、第3章の診断 #17 をご覧ください。

> **書き込み機能(--allow-write)は付けないでください**
> 2026年10月から、GA4の設定を変更できる「書き込み」ツールが3つ加わりました(注釈の作成、カスタムディメンションの作成、キーイベントの設定)。ただし**既定ではオフ**で、サーバーの起動時に `--allow-write` を付けたときだけ有効になります。
>
> 本別冊の手順では、①STEP7の設定に `--allow-write` を書かない、②STEP6のログインで読み取り専用の権限(`analytics.readonly`)だけを渡す、の2つで、**二重に書き込めない状態**になっています。Web上の解説には `--allow-write` を付けた設定例もありますが、分析のために付ける必要はありません。指示の取り違えで、本番のGA4に注釈や設定が追加されてしまうおそれがあるためです。
>
> どうしても使う場合は、編集用の権限(`analytics.edit`)を加えてSTEP6をやり直すことと、プロパティの「マーケティング担当者」以上の役割(カスタムディメンションの作成は「編集者」)が必要です。まずはテスト用のプロパティで試してください。

第2章 セットアップ8ステップ

所要時間の目安は45〜75分です(Python・gcloudのインストール有無で変わります)。途中で詰まったら第3章の診断へ。

STEP 1 Google Cloudプロジェクトの準備

モジュール1のSTEP1でプロジェクトを作成済みの方は、**同じプロジェクトをそのまま使えます**(このSTEPはスキップ可)。新規の方は `console.cloud.google.com` にアクセスし、上部のプロジェクト選択ボックス→「新しいプロジェクト」→名前を入力して作成してください。クレジットカードの登録は不要です。

> **Google Cloudを初めて使う方へ**
> コンソールへの初回アクセス時に、**国の選択と利用規約への同意**の画面が表示されます。ここを必ず完了させてください。未完了のままだと、この後のAPI有効化や認証が正常に機能しないことがあります(→診断 #13)。なお、**クレジットカードの登録は本ガイドの範囲では不要**です(プロジェクト作成・API有効化・GA4 Data APIの利用まではカード登録なしで行えます)。カード登録が必要になるのは、GA4→BigQueryのエクスポートやBigQueryでのクエリ実行に進む場合のみで、これらは本ガイドの範囲外です。詳しくはFAQ Q8をご覧ください。

> **控えておくもの**
> プロジェクトの「**プロジェクトID**」(英数字とハイフンの文字列)をメモしてください。STEP7で使います。プロジェクト「名」(日本語可の表示名)ではなく「ID」です。プロジェクト選択画面のID列、または「設定」で確認できます。

STEP 2 APIの有効化(2つ必要)

左メニュー「APIとサービス」→「ライブラリ」から、次の**2つ**を検索してそれぞれ「有効にする」を押します。

- **Google Analytics Admin API** — アカウント・プロパティ情報の取得に使用
- **Google Analytics Data API** — レポートデータの取得に使用

> **モジュール1との違い**
> サードパーティ版はData APIのみでしたが、公式版は**Admin APIも必須**です。片方だけだとプロパティ一覧の取得(`get_account_summaries`)が失敗します(→診断 #7)。

STEP 3 Pythonの確認とインストール

ターミナル(Windowsは「PowerShell」をスタートメニューから起動/Macは「ターミナル」)で次を実行します。

```
python --version
```

`Python 3.10` 以上が表示されればOKです(**Macでは `python3 --version` が基本です**。python で見つからなくても python3 なら通ることが多いです)。表示されない・古い場合は python.org/downloads からインストールします。**Windowsはインストール画面の「Add Python to PATH」に必ずチェック**を入れてください(入れ忘れが最頻出のつまずきです→診断 #1)。

STEP 4 pipxのインストール

公式サーバーの起動に使うツールです。ターミナルで次の2行を1行ずつ実行します。

```
python -m pip install --user pipx
python -m pipx ensurepath
```

実行後、**ターミナルを一度閉じて開き直し**、次で確認します(開き直さないと反映されません→診断 #2)。

```
pipx --version
```

バージョン番号が表示されればOKです。

STEP 5 Google Cloud SDK(gcloud)のインストール

認証に使うGoogle公式ツールです。**次のURLを直接開き**、OS用のインストーラーをダウンロードしてインストールします(設定はすべて既定のままでOK)。

```
https://cloud.google.com/sdk/docs/install
```

> **検索経由の落とし穴**
> 「Google Cloud SDK」で検索すると、**App Engine用の別のダウンロードページ**に迷い込むことがあります(実例あり)。上記URLを直接開くのが確実です。

Macをお使いの方は、Homebrewでの導入も可能です(どちらか一方でOK)。

```
brew install --cask google-cloud-sdk
```

完了後、新しいターミナルで確認します。

```
gcloud --version
```

STEP 6 ADC認証 — 公式版の心臓部

ここが公式版の最重要ポイントです。鍵ファイルの代わりに、**ご自身のGoogleアカウントでログインして認証情報を作ります**。次のコマンドを**1行まるごと**コピーして実行してください(途中で改行しない・`--scopes` 以降を省略しない→診断 #10)。

```
gcloud auth application-default login --scopes=https://www.googleapis.com/auth/analytics.readonly,https://www.googleapis.com/auth/cloud-platform
```

ブラウザが開くので、**GA4プロパティの閲覧権限を持っているGoogleアカウント**でログインし、許可します(複数アカウントをお使いの方はアカウント選択を慎重に→診断 #11)。完了するとターミナルに保存先が表示されます。

```
Credentials saved to file: [C:\Users\(ユーザー名)\AppData\Roaming\gcloud\application_default_credentials.json]
```

この**ファイルパスをメモ帳などにコピー**しておいてください。STEP7で使います。

> **なぜこれが安全なのか**
> サードパーティ版では秘密鍵そのものを設定ファイルに貼り付けるため、設定ファイルの扱いに注意が必要でした。ADC方式では設定ファイルに書くのは「認証情報ファイルの**場所**」だけです。設定ファイルを誤って人に見せても、鍵は漏れません。

STEP 7 Claude Desktopの設定

Claude Desktopを起動し、「ファイル」→「設定」→「開発者」→「**設定を編集**」を押します。開いたフォルダの `claude_desktop_config.json` をメモ帳(Macはテキストエディット)で開き、次の内容にします。

```
{
 "mcpServers": {
  "analytics-mcp": {
   "command": "pipx",
   "args": ["run", "analytics-mcp"],
   "env": {
    "GOOGLE_APPLICATION_CREDENTIALS": "STEP6でコピーしたパス",
    "GOOGLE_CLOUD_PROJECT": "STEP1のプロジェクトID"
   }
  }
 }
}
```

書き換えるのは2箇所です。

- **GOOGLE_APPLICATION_CREDENTIALS:** STEP6のパスに置き換え。**Windowsは `\` を `\\` と2つ重ねて**書きます(→診断 #5)。例: `C:\\Users\\taro\\AppData\\Roaming\\gcloud\\application_default_credentials.json`
- **GOOGLE_CLOUD_PROJECT:** STEP1で控えたプロジェクトID(名前ではなくID→診断 #6)。v1.2までの別冊では `GOOGLE_PROJECT_ID` と書いていましたが、Googleの公式手順に合わせて名前を変えました。**すでに GOOGLE_PROJECT_ID のまま動いている方は、書き換える必要はありません。**

すでにサードパーティ版(無料記事・モジュール1)を設定済みの方
既存の設定は**書き換えず・消さず**、公式版を「もう1つのサーバー」として並べて追記します。完成形は次の構造です。

```
{
 "mcpServers": {
  "google-analytics": {
   (既存のnpx設定 …… そのまま残す)
  },
  "analytics-mcp": {
   (本STEPの内容をここに)
  }
 }
}
```

- 既存エントリの閉じ括弧 `}` の**直後にカンマ(,)**を入れてから、`"analytics-mcp"` ブロックを追記します(カンマ漏れはコネクタが消える原因の定番→診断 #4。最後のエントリの後ろにはカンマを付けません)
- `mcpServers` の外にある項目(他の設定)には一切触れないでください
- 両方入れた場合は、分析時に「analytics-mcpを使って」のように指名すると安定します(FAQ Q2)

保存したら、Claude Desktopを**完全に終了**します。Windowsは Ctrl+Shift+Esc でタスクマネージャーを開き、残っているClaudeを「タスクの終了」で閉じます(ウィンドウを閉じるだけでは終了していません)。

STEP 8 起動と動作確認

Claude Desktopを再起動し、「ファイル」→「コネクタ」に `analytics-mcp` が表示されていれば設定完了です。**初回はpipxがサーバーを自動ダウンロードするため、認識まで数分かかることがあります**(→診断 #3)。新規チャットで次を試しましょう。

PROMPT(動作確認)

私のGA4プロパティの一覧を見せてください

プロパティの一覧が返ってくれば接続成功です。公式版はプロパティIDを事前に調べる必要がなく、一覧から対象を選んで分析を始められます。このままモジュール3の「7日間プログラム」に進んでください(プロンプトはすべてそのまま使えます)。

方式によって「合格の基準」が違います
公式版(本別冊)=上記のとおり、プロパティの一覧が返れば成功です。
サードパーティ版(モジュール1)=同じ質問をすると「その機能を持つツールがない」と返ります。これは**正常な応答**です。サードパーティ版はレポート取得の機能だけを持ち、プロパティ情報を取得する機能を持たないためです。この場合は「昨日のセッション数を教えて」と聞き、数値が返れば接続成功と判断してください。

第3章 公式版つまずきポイント診断(17パターン)

症状から引いてください。工程順に並んでいます。ここに無い症状は、モジュール2の総合診断チャートの考え方(工程を切り分ける)がそのまま使えます。

#1 python --version が「認識されません」と出る/バージョンが古い

原因: Python未インストール、またはPATH未設定(Windowsのチェック入れ忘れ)。

対処:python.orgからインストールし直し、Windowsは「Add Python to PATH」に必ずチェック。インストール後はターミナルを開き直す。Macは `python3 --version` でも確認。

#2 pipx --version が「認識されません」と出る

原因: `ensurepath` の反映前(ターミナルを開き直していない)。

対処:ターミナルを完全に閉じて開き直す。それでも駄目なら `python -m pipx ensurepath` を再実行→再度開き直し。

#3 コネクター一覧に出るのが遅い/初回の応答が返らない

原因:初回起動時、pipxが analytics-mcp を自動ダウンロードしている最中。

対処:数分待ってからチャットを試す。急ぐ場合はターミナルで `pipx run analytics-mcp --help` を一度実行して事前ダウンロードしておく。

#4 コネクタに analytics-mcp が表示されない

原因:configのJSON構文エラー(カンマ・括弧・引用符)、またはClaudeが完全終了されていない。

対処:①JSONの括弧とカンマの対応を確認(既存サーバーと並記した場合は特に)。②タスクマネージャーでClaudeのプロセスをすべて終了してから再起動。③それでも駄目ならconfigを一度本別冊の最小構成に戻して切り分け。

#5 (Windows)起動してもエラー/認証ファイルが見つからないと言われる

原因:パスの `\` が1つのまま(JSONでは `\\` と2つ必要)。

対処:configのパスをすべて `\\` に修正。例: `C:\\Users\\...` 。修正後は完全終了→再起動。

#6 403 / permission denied エラーが出る

原因(3大定番):①ログインしたGoogleアカウントに対象プロパティの閲覧権限がない ②Admin/Data APIのどちらかが未有効 ③GOOGLE_CLOUD_PROJECT(v1.2までの別冊ではGOOGLE_PROJECT_ID)がプロジェクト「名」になっている。

対処:①GA4の「プロパティのアクセス管理」で権限を確認 ②STEP2で両方のAPIを有効化 ③プロジェクト「ID」(英数字)に修正。

#7 レポートは取れるのに「プロパティ一覧」だけ失敗する

原因: Admin APIが未有効(Data APIだけ有効な状態)。

対処:STEP2に戻り「Google Analytics Admin API」を有効化。反映まで1〜2分かかることがあります。

#8 昨日まで動いていたのに突然エラーになった

原因:ADC認証の有効期限切れ(一定期間で失効します)。

対処:STEP6のコマンド(`gcloud auth application-default login --scopes=...`)をそのまま再実行して再ログイン。configの変更は不要です。

#9 gcloud --version が「認識されません」と出る

原因:SDK未インストール、またはインストール後にターミナルを開き直していない。

対処:インストーラーを完了させ、新しいターミナルで再確認。Windowsはインストーラー最後の「Start Google Cloud SDK Shell」系のチェックに従う。

#10 認証は通ったのにGA4のデータだけ取れない

原因:STEP6のコマンドを `--scopes` なしで実行した(analytics.readonlyの権限が認証情報に含まれていない)。

対処:本別冊のコマンドを1行まるごとコピーして再実行(--scopes=以降が必須)。

#11 プロパティ一覧に目当てのプロパティが出てこない

原因:ADCログイン時に別のGoogleアカウントを選んでしまった(仕事用/個人用の取り違えが定番)。

対処:STEP6を再実行し、ブラウザのアカウント選択画面で対象プロパティの権限を持つアカウントを選び直す。

#12 会社PCでgcloudやPythonのインストールがブロックされる

原因:組織のセキュリティポリシーによるインストール制限。

対処:IT部門への申請が必要です(申請文面のひな形はモジュール5のQ7を流用可)。承認が難しい場合は、追加インストール不要のサードパーティ版(モジュール1)を検討してください。

#13 (STEP6)ブラウザで「このアプリはブロックされます」と表示される

原因:単一ではなく複合的です。Google Cloudアカウントの未アクティベート/gcloud共通クライアントに対するスコープ制限/アカウント側のポリシー(会社の管理者制限・高度な保護機能)などが絡みます。

対処(上から順に試す判定フロー):

① **Google Cloudの利用開始を確認** — 初回の国選択・利用規約同意(STEP1)と、API有効化(STEP2)が正常に完了しているか。

② **自分のOAuthクライアントIDで認証** — 「APIとサービス」→「OAuth同意画面」を設定(アプリ名・メール)→「認証情報」→「OAuthクライアントIDを作成」(種類:デスクトップアプリ)→JSONをダウンロード。STEP6のコマンドに `--client-id-file=(JSONのパス)` を付けて再実行します。

③ **同意画面は「テスト中」+「テストユーザー」に自分のGmailを追加**してから認証。「Googleで確認されていません」の警告は「詳細」→「(アプリ名)に移動」で通過できます。テストユーザーに追加できない場合(→#15)のみ、公開ステータスを本番に変更して試します。

④ **それでも通らない場合はモジュール1(サードパーティ版)へ** — ブラウザ認証を使わない方式のため、この問題の影響を受けません。すでにサードパーティ版が動いているなら、まずそちらで分析を進めるのが近道です。

※テスト中の認証は約7日で失効します(→#8のコマンド再実行・30秒で復旧)。会社アカウントの場合は、管理者に「Google Cloud SDKの許可」を申請する選択肢もあります(申請文面はモジュール5のQ7を流用可)。

#14 SERVICE_DISABLED というエラーが出る

原因:裏方のAPIが未有効(STEP2の2つとは別のAPIです)。

対処:APIライブラリで「**Service Usage API**」と「**Cloud Resource Manager API**」を検索し、それぞれ有効化します。反映まで1〜2分かかることがあります。

#15 テストユーザー追加で「不適格なアカウントは追加されません」と出る

原因:プロジェクトのオーナー本人を追加しようとしている、またはアドレスの表記ゆれで発生した実例があります。

対処:アドレスの綴りを確認しても解消しない場合は、テストユーザー登録にこだわらず、#13の③後段(公開ステータスの変更)へ進んでください。

#16 パソコンを買い替えたら動かなくなった

原因:認証情報はパソコンごとに保存されているため、アカウントが同じでも引き継がれません。

対処:新しいパソコンで次の4つを行います。①Claude Desktopのインストールと設定ファイルの設置 ②MCPサーバーの導入(初回は自動ダウンロードのため数分かかることがあります) ③ `gcloud auth application-default login --scopes=...` の再実行(STEP6と同じコマンド) ④ブラウザでの認証・権限承認。

※**設定ファイルをコピーするだけでは動きません。**ファイル内に書かれているのは認証情報の「場所」であり、認証情報の実体は別ファイルとして保存されています。またWindowsとMacではパスの書き方が異なります(Windowsは `\\` の二重化が必要)。

#17 表にある新しいツール(広告費・注釈など)が使えない/古い動きのまま

原因: `pipx run` は、一度ダウンロードしたサーバーを**最大14日間そのまま使い回します**。そのため、新しい版が出ても、すぐには切り替わりません。

対処:ターミナルで次を一度だけ実行し、最新版を取り直します。終わったらClaude Desktopを完全に終了して、起動し直してください。設定ファイルの変更は不要です。

```
pipx run --no-cache analytics-mcp --help
```

使い方の説明(英語)が表示されれば取り直しは完了です。放っておいても、14日以内には自動で新しい版に切り替わります。

第4章 公式版で広がる分析 — 追加プロンプト3本

モジュール3の20本のプロンプトは公式版でもそのまま使えます。ここでは**公式版でしかできない**3つを追加します。

PROMPT 公式+1|プロパティ横断

アクセスできるGA4プロパティの一覧を出して。その中から「(サイト名)」のプロパティを使って、昨日のセッション数を教えて。

ねらい:複数サイトを扱う方の切り替えがゼロ工数になります。サードパーティ版では設定ファイルの書き換えが必要だった操作です。

PROMPT 公式+2|リアルタイム

今このサイトを見ているアクティブユーザー数と、閲覧されているページの上位5件をリアルタイムで教えて。

ねらい:メール配信直後・SNS投稿直後・テレビ露出時などの「今どうなってる?」に即答できます。GA4画面のリアルタイムレポートを開かずに済みます。

PROMPT 公式+3|ファネル

「トップページ閲覧 → 商品ページ閲覧 → カート追加 → 購入」のファネルレポートを過去30日で作成して、最も離脱が大きいステップを教えて。

ねらい:GA4の探索レポートでしか組めなかったファネル分析が対話で完結します。ステップ名はご自身のサイトのイベント・ページに読み替えてください。

第5章 よくある質問(公式版編)

Q1 結局、どちらを使えばいいですか?

A. 迷ったら:これから新規に構築する方は公式版、最短で試したい方はサードパーティ版。

公式版は準備(Python・gcloud)がやや重い代わりに、鍵管理が不要で機能も多く、業務で長く使う土台に向きます。サードパーティ版はnpxだけで動く手軽さが最大の利点です。第1章の判断基準もご覧ください。

Q2 両方を同時に設定できますか?

A. できます。configの mcpServers 内に並べて記載します。

```
{
  "mcpServers": {
    "google-analytics": { (サードパーティ版の既存設定) },
    "analytics-mcp":   { (本別冊STEP7の設定) }
  }
}
```

ただしAIがどちらのツールを使うか迷うことがあるため、常用は片方に決め、プロンプトで「analytics-mcpを使って」のように指名するのが安定します。

Q3 正式版(v1.0)になって、何が変わりましたか?設定し直す必要はありますか?

A. 設定し直す必要はありません。使えるツールが増え、書き込み機能(既定はオフ)が加わりました。

2026年11月3日にv1.0となり、以前の「Experimental(実験的)」の表記はなくなりました。STEP1〜8の手順は変わっていません。変わったのは次の3点です。①広告費・ROAS、注釈、キーイベントを読み取るツールが増えた(第1章の表)。②GA4の設定を変更できる書き込みツールが加わった。ただし既定ではオフで、本別冊の手順では二重に書き込めない状態になっています(第1章の注意)。③チームで共用するサーバーを立てる方式が加わった(Q9)。

今後も仕様変更(コマンド・ツール名・認証方式の変更など)を確認した際は、本ガイドの方針どおり**更新版を無償で配布**します。巻末の更新履歴で対応状況を確認できます。

Q4 AIに見せるプロパティを1つに絞りたいのですが

A. 公式版の標準設定では絞れません。絞りたい場合は2つの方法があります。

①**サードパーティ版を使う**(モジュール1)— 権限を付与したプロパティしか見えないため、構造的に安全です。②**サービスアカウントのなりすまし(上級)**— 公式版でも、特定プロパティのみに権限を付与したサービスアカウントを経由する設定が可能です(`--impersonate-service-account`)。クライアントデータを扱う専門家は①が簡単で確実です。

Q5 モジュール2〜5の内容は公式版でも使えますか?

A. モジュール3(プロンプト20本)とモジュール4(CLAUDE.md)はそのまま全部使えます。

モジュール5のFAQも考え方はすべて共通です(費用が0円である点も同じ)。モジュール2の診断チャートはサードパーティ版の工程に対応しているため、公式版で詰まった場合は**本別冊の第3章**を先に参照してください。

Q6 クライアントに、サービスアカウントの追加を「怪しい」と断られました

A. 公式版なら、そのアドレスの追加自体が不要になります。

公式版はご自身の普段のGoogleアカウントで認証するため、クライアントのGA4に新しいアカウントを追加する必要がありません。すでにご自身のメールで閲覧権限をお持ちなら依頼はゼロ、まだの場合も「普段のメールに閲覧者権限を」という通常のアナリスト業務と同じ依頼になります(複数クライアントを扱う場合の注意はQ4へ)。サービスアカウント方式を続けたい場合は、アドレスは作成時に命名できるため「ga4-readonly-viewer@〜」のような分かりやすいIDで作り直し、「Googleが発行する閲覧専用の機械アカウントで、いつでも削除可能」という説明を添えて再打診する手もあります。

Q7 複数のサイト(プロパティ)を分析したいのですが

A. 公式版なら標準対応です。分析時は対象プロパティを必ず明示してください。

公式版はログインアカウントが見えるプロパティを一覧から扱えます(第4章のプロンプト公式+1)。取り違え防止のため、**回答の冒頭に対象プロパティ名とIDを表示させる**指示を習慣にすると安全です。サードパーティ版は設定ファイルでプロパティを1つ指定する設計のため、切り替えは設定の書き換えか、サーバーエントリをサイト別に複数並記する形になります。複数サイトの分析が日常なら、公式版が快適です。

Q8 クレジットカードの登録は必要ですか?

A. 本別冊の範囲では不要です。BigQueryに進む場合のみ必要になります。

操作	カード登録
Google Cloudプロジェクトの作成	**不要**
Admin API / Data APIの有効化・利用(本別冊の範囲)	**不要**
GA4→BigQueryのリンク設定・エクスポート	必要
BigQueryでのクエリ実行(無料枠を使う場合も)	必要

BigQueryには無料枠(月1TBのクエリ処理・10GBのストレージ)がありますが、その無料枠を使う場合でも請求先アカウントの登録が前提となります。登録しても、無料枠の範囲内であれば課金は発生しません。紐付け状況はGoogle Cloudコンソールの「お支払い(Billing)」で確認できます。

Q9 チームで1つのサーバーを共用する方式があると聞きました

A. v1.0で加わった方式です。ただし、サーバーを社内やクラウドで運用する前提のため、本ガイドの範囲外です。

公式サーバーをWebサービスとして起動し、利用者がそれぞれ自分のGoogleアカウントでサインインする方式(HTTP+OAuth)が加わりました。ただし、Google Cloud Runなどへの設置、OAuthクライアントの発行、秘密情報の管理が必要で、情報システム部門の作業になります。**個人のパソコンで使う場合は、これまでどおり各自がSTEP1〜8を行う方法が一番簡単で安全です。**チームでの導入を検討している場合は、モジュール5のQ7(情シスへの申請文面)もあわせてご覧ください。

巻末 更新履歴

版	日付	内容
v1.3	2026年11月	公式サーバーの正式版(v1.0、11月3日)に対応。最新版v1.1.0で内容を確認。第1章に「使えるツール」の一覧(新しく使えるようになった広告費・ROAS、注釈、キーイベントなど)と、書き込み機能の注意を追加。STEP7の環境変数名をGoogleの公式手順に合わせて変更(従来の名前のままでも動作)。診断#17(新しいツールが出てこない)とFAQ Q9(チームで共用するサーバー)を追加し、FAQ Q3を書き直し
v1.2	2026年8月	ウェビナー(計5回・500名)の質問を反映。STEP1にカード登録の線引きを明記、STEP8に方式別の合格基準を追記、診断#16(PC買い替え時の再設定)とFAQ Q8(カード登録の要否)を追加
v1.1	2026年7月	購入者サポート実例を反映。STEP1(初回利用時の規約同意)・STEP5(インストール直リンク・Mac/Homebrew)・STEP7(既存設定との併記例)を加筆。診断#13〜#15(認証ブロックの判定フロー/SERVICE_DISABLED/テストユーザー追加不可)とFAQ Q6・Q7を追加
v1.0	2026年7月	初版発行。Google公式MCPサーバー(analytics-mcp)の公開に対応(パッケージv1.1の追加モジュールとして)

本別冊は「MCP×GA4 スタートガイド 完全版」の一部です。単体での再配布・転売はご遠慮ください。
© HAPPY ANALYTICS ／ ga4.guide